

稲・大豆作情報 (NO. 8)

1. 水稲作況情報田の生育概況 (8月18日現在)

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況				概況
			草 丈 c m	茎 数 本/m ²	主 稈 出葉数	葉 色 SPAD	
夢しずく 佐賀市本庄町	6/17 18.5株/m ²	本 年 平 年 平年比					8月3半旬は、高温(+0.6℃)で、日照時間は少なく(69%)、降水量は多い(252%) ◇平年と比べ、 草丈：すべての品種で高い。 茎数：「さがびより」は少なく、「ヒヨクモチ」は多い。 主稈出葉数：やや遅れている。 葉色：「ヒヨクモチ」は淡く、「さがびより」は濃い。 ★「さがびより」は、幼耳間長-10~2cm、「ヒヨクモチ」は幼穂が出来始めている。
			出穂期 8月15日 (平年より1日早い)				
さがびより 小城市芦刈町	6/20 16.7株/m ²	本 年 平 年 平年比	97.5 88.7 (110)	366 432 (81)	13.8 14.5 (-0.7)	37.0 35.6 (1.4)	
ヒヨクモチ 小城市牛津町	6/28 19.6株/m ²	本 年 平 年 平年比	74.0 72.2 (102)	738 591 (125)	13.6 14.4 (-0.8)	37.5 39.6 (-2.1)	

注1) 各品種 前作：麦 注2) 施肥及び病虫害防除は地区基準に準ずる
 注2) 平年値は、過去10年間(H24~R3)の平均値
 注3) 「夢しずく」「さがびより」は穂肥診断に基づき穂肥施用していない。

◆農業試験研究センター米づくり情報 8号 8月19日 (抜粋)

移植日	項目 品種	年 次	草 丈 cm	茎 数 本/m ²	葉 齢 L	葉 色 SPAD	概 況 (平年と比較して)
6月17日	夢しずく	本 年 平 年 平年比(差)	出穂期:8月15日 出穂期:8月17日 2日早い				[気象] 8月12~8月18日まで ◆平均気温…平年より0.4℃低い ◆日照時間…短い(平年比52%) ◆降水量…多い(平年比619%) [生育] ◆草丈 「ヒノヒカリ」でやや高く、「さがびより」「ヒヨクモチ」で高い。 ◆茎数 「ヒノヒカリ」「さがびより」では少なく、「ヒヨクモチ」では多い。 ◆葉齢 「夢しずく」の主稈葉数は平年よりやや多かった(主稈葉数:本年13.8、平年13.3)、葉耳間長は「ヒノヒカリ」で+5.0cm、「さがびより」で-6.5cmとなっている。「ヒヨクモチ」の葉齢はやや遅れている。 ◆葉色 「ヒノヒカリ」「ヒヨクモチ」では平年並み、「さがびより」では濃い。 ◆幼穂長 「ヒヨクモチ」8/19時点 3.4mm
	ヒノヒカリ	本 年 平 年 平年比(差)	95.9 91.6 105	386 453 85	14.2 14.2 ±0	32.8 33.0 -0.2	
6月20日	さがびより	本 年 平 年 平年比(差)	92.2 84.5 109	398 453 88	14.6 14.4 +0.2	38.7 35.4 +3.3	
	ヒヨクモチ	本 年 平 年 平年比(差)	84.2 74.8 113	616 544 113	14.4 14.7 -0.3	36.8 35.8 +1.0	

○生育概況

6/中下旬移植の「夢しずく」は、出穂期から穂揃い期となっている。「ヒノヒカリ」は8/25前後、「さがびより」は8/30前後、「ヒヨクモチ」は9/8前後の出穂見込みで、平年並みと予想される。

2. 水稲管理

生育ステージは早生種が登熟期、中晩生種は穂孕み期～出穂期を迎えている。
収量・品質に影響を及ぼす時期でもあり、水管理・穂肥・病害虫防除を適正に行う。

○共通管理

- ・全品種、水分ストレスに敏感な時期となっているため、強い水分ストレスを与えないよう間断灌水を励行し、湿潤（黒乾）状態を保つ。

○今週の管理

ヒヨクモチ

- ・幼穂形成期～穂孕み期を迎えている。
- ・穂肥は下記の診断結果を基に施用する。
- ・穂肥施用時は湛水し、その後の間断灌水では、地固めと根に空気を送るため落水期間を確実にとる。地が緩い場合は、落水期間をやや長めにとる。

ヒヨクモチの穂肥施肥基準（分施タイプ）

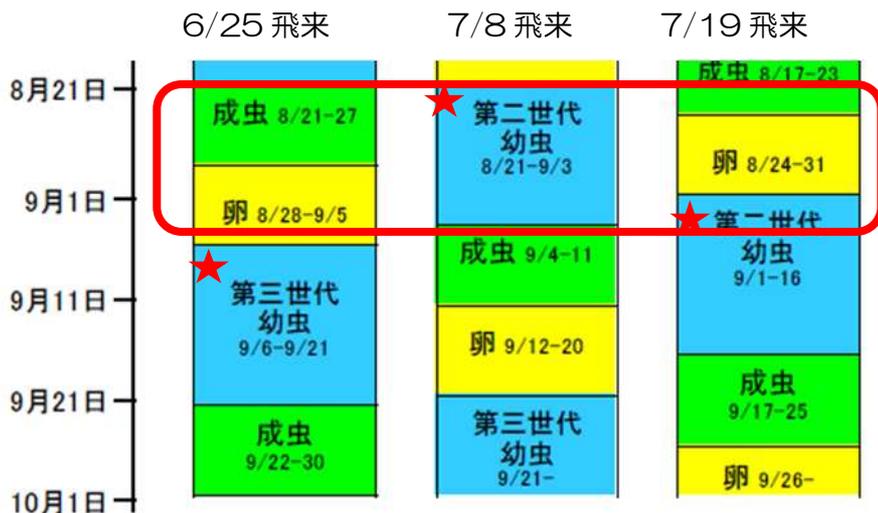
	穂肥Ⅰ(kg/10a)	穂肥Ⅱ(kg/10a)	実肥(kg/10a)
施用時期の目安	8月16～17日頃 (幼穂形成始期幼穂長1ミリ頃)	8月25～27日 (穂肥Ⅰの10日後)	穂揃期 (9月8日～10日頃)
LPBB804	40	—	—
BB602	25	10	10

※「**全量元肥施用田（一発くん）**」において、穂肥Ⅰ～Ⅱの時期に **SPADで40を切る場合には**、窒素成分で2kg/10a程度（BB602 10～20kg/10a）施用する。

○病害虫情報(発生および防除)

◆ウンカ類

- ・今年の特イロウンカは、主に6/25、7/8、7/19の飛来が確認されている。
- ・管内のウンカ類は、8/18の調査において、一部圃場でヒメトビウンカやセジロウンカ中心であるが、若齢・老齢幼虫が0.2～0.6頭/株、成虫もわずかに確認されている（さがびより）。
- ・地域によっては、発生パターン以外のステージの幼虫も確認されていることから、必ず発生状況を確認し、適期適正防除に努める。
- ・8/21頃から、7/8飛来の第2世代幼虫がふ化し始めてくると予想されるため、発生量が多い場合は、防除効果の高い幼虫ふ化揃い期に防除を行う。
- ・防除の際は、湛水するとともに、株元まで薬剤が十分かかるよう、ていねいに散布する。



・防除効果が高い時期は、幼虫へ化揃い期（各幼虫期の前半（図中★））である。

発生予測図は気象をもとに随時更新され、変更される場合があるため、以下に示すホームページで最新情報を定期的に確認し、防除の参考にしてください。

図1 トビイロウンカ各世代の発生予測（第3版、2022年7月20日作成）

<http://www.pref.saga.lg.jp/kiji00368010/index.html>

- ・病害虫発生予察情報予報第4号（7/27発表）では、8月は以下の予報が出ているため、今後も発生状況に留意し、適切な管理を行う。

◆紋枯病

- ・8月の発生量は、やや多い予測である。
- ・生育が良好で、過繁茂状態の圃場では、一気に進展する恐れがあるため、田回りを励行し、病斑が確認された場合は、病斑が上位葉の葉鞘に進展する時期（液剤、粉剤の場合は出穂10～20日前が目安）に防除を行う。



◆斑点米カメムシ類

- ・8月の発生量は、やや多い予測である。
- ・耕種的な防除として、畦畔除草を出穂10日前までに行う。
- 出穂後の除草は、水田内に斑点米カメムシ類を誘い込んで被害を助長するため、時期を逸した場合には収穫前まで除草しない（「夢しずく」圃場周辺では実施しない！）
- ・山麓部や河川敷付近など、例年発生が多い圃場では田回りを励行し、防除を徹底する。
- ・防除はカメムシが穂に上ってくる夕方に行うと効果が高い。

草刈りの時期（目安）	斑点米カメムシ類の防除時期
平坦部さがびより・・・8/20頃まで	◎多発生：「穂揃い期」及び「乳熟期」の2回防除
ヒヨクモチ・・・・・・8/25頃まで	◎少発生：「乳熟期（出穂の約15日後）」1回防除

3. 大豆管理

8月中旬の大雨で、畝間に長時間滞水している圃場も見受けられた。今後の豪雨にも対応できるよう排水機能の確保・整備を行いつつ、土壌環境の改善を中心に管理する。

○生育状況

6月下旬～7月頭播種のものには開花期となっている。

○中耕・培土

- ・圃場環境が整ったら速やかに実施し、土壌環境の改善に努める。
中耕培土によって土壌への酸素供給、新根発生促進などの効果がある。
開花が始まっている圃場については、断根による株の活性低下の恐れがあるため控える。

○排水路の整備

- ・大豆の根は、水分ストレスに弱く、長時間の浸水やその前後の干ばつに大きく影響を受ける（早期落葉、小粒化など）。
圃場内に長時間滞水することがないように、排水路まで畝溝をつなげておき、大雨後は速やかに排水できるようしっかりと整備を行っておく。

○雑草対策

- ・イネ科雑草が多いところでは、ポルトフロアブル、ナブ乳剤等で防除する。
- ・広葉雑草が多い場合は、アタックショット等で防除する。
- ・アサガオ類やホオズキは、繁殖力が強く、放置すると次年度以降の発生量が多くなるため、圃場内はもとよりまくら地や畦で発生している場合は、必ず抜き取り圃場外へ持ち出すか薬剤散布での防除を徹底する。

○病害虫対策

- ・ハスモンヨトウ、オオタバコガなど鱗翅目幼虫の被害は、降雨の影響で全体的にはやや少ない状況であるが、一部では白変葉も確認される。
- ・葉の食害跡に注意しながら圃場巡回を行い、確認後は適正防除に努める。
ハスモンヨトウ・オオタバコガ・・・プレバソン・ペガサス
シロイチモジヨトウ・・・プレオ・ディアナ
- ・また、今年は、カメムシ類の発生が多くなっているため、各圃場で発生状況を確認し、莢の伸長初期から子実肥大中期に防除を行う。
- ・病害虫発生予察情報予報第5号（8/10発表）では、8月下旬は以下の予報が出ているため、今後も発生状況に留意し、適切な管理を行う。

◆ハスモンヨトウ・・・平年よりやや多

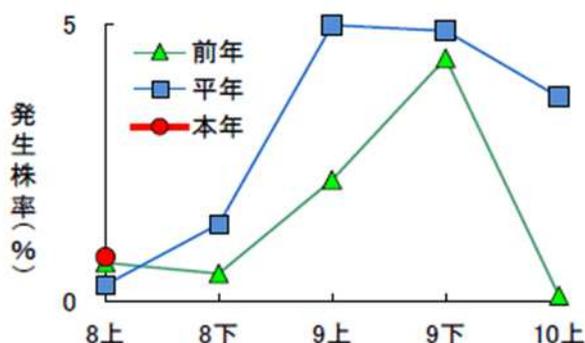


図1 大豆でのハスモンヨトウの発生推移

◆カメムシ・・・平年より多

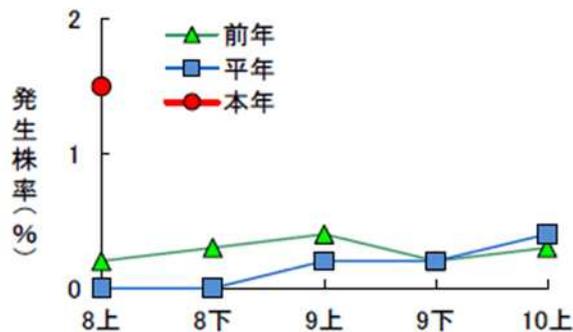
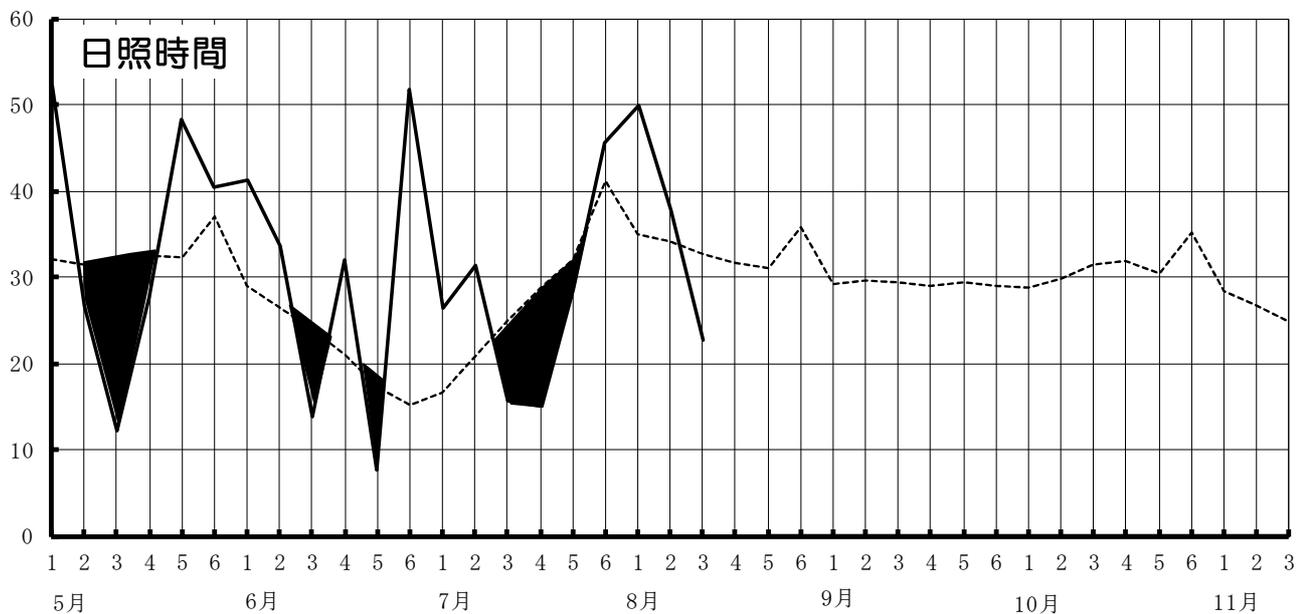
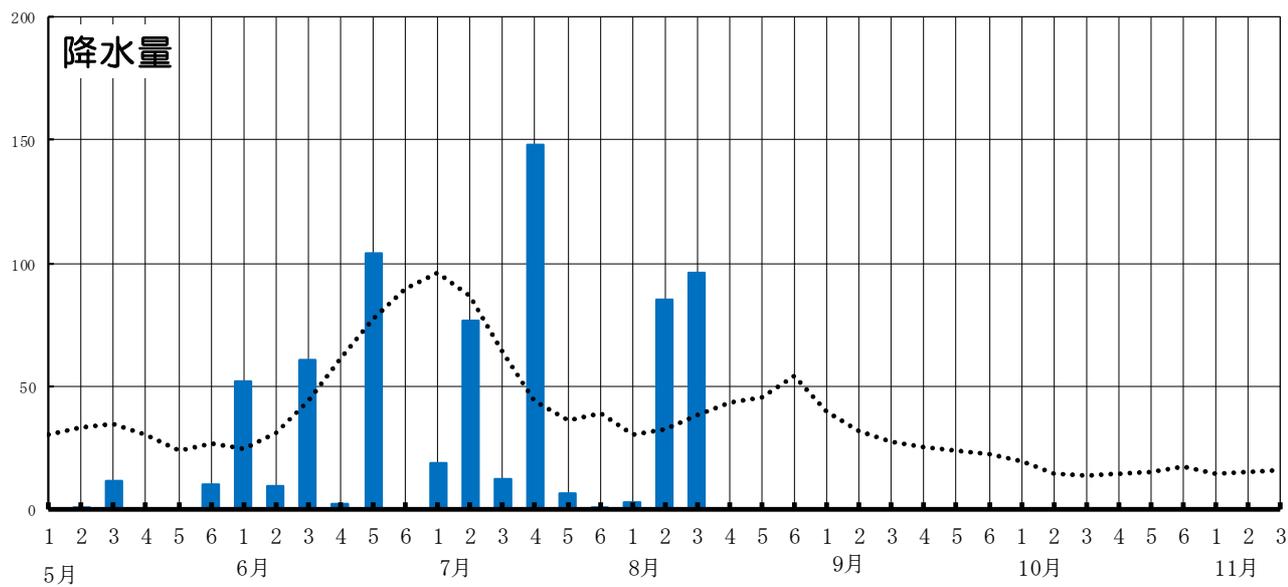
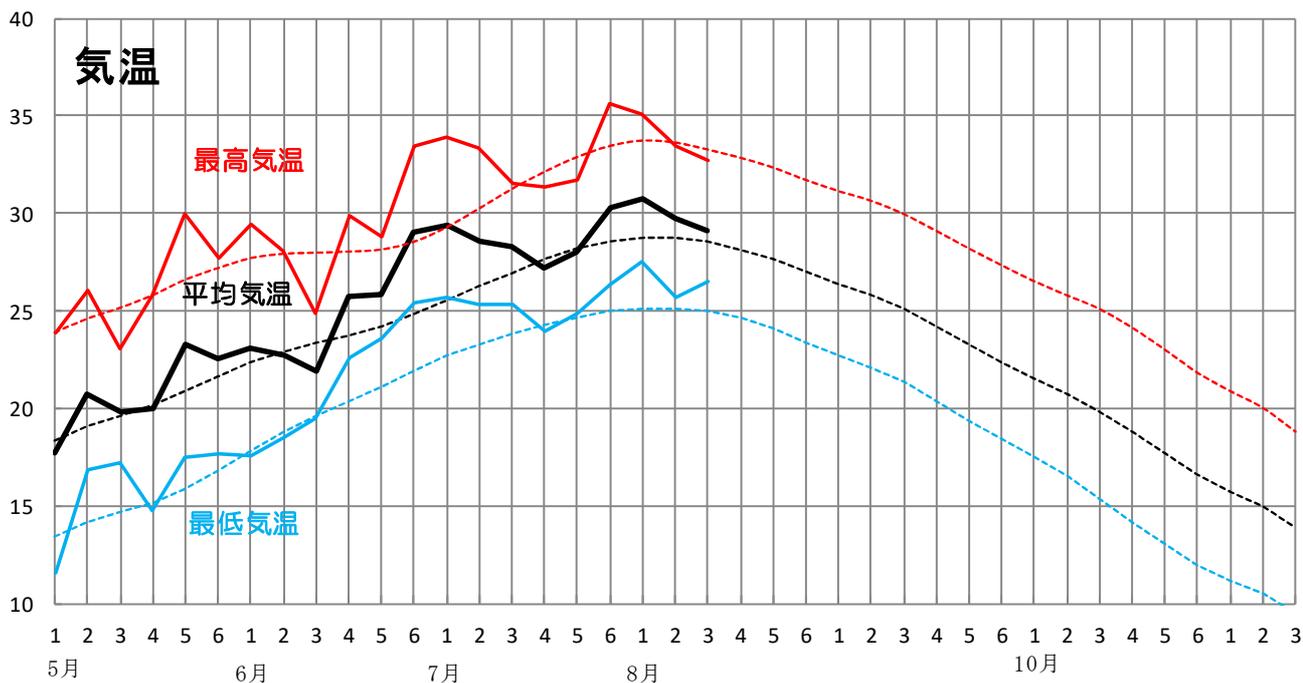


図1 大豆でのカメムシ類の発生推移

令和4年産水稻生育期間気象グラフ（アメダス：佐賀）

佐城農業振興センター



令和4年産 水稻の収穫期予想積算表【8月18日現在】

佐城農業振興センター

月	日・曜	平均気温		品 種				
		平年値	本年値	夢しずく				
		°C	°C	8/1頃出穂	8/12頃出穂	6/16移植 8/15頃出穂	8/17頃出穂	
積算気温 最低値		平 坦 880°C						
積算気温 最高値		山麓 1,050°C						
出穂後日数 最短～最長		33～39日						
黄熟割合 早限～遅限		75～90%						
籾水分 早限～遅限		26～23%						
8月	16	金	28.3	27.5	444	115	28	出穂期
	17	土	28.2	25.5	470	140	53	
	18	日	28.1	27.3	497	168	80	
	19	月	28.1		525	196	108	
	20	火	28.0		553	224	136	
	21	水	27.9		581	252	164	111
	22	木	27.8		609	280	192	139
	23	金	27.6		636	307	220	167
	24	土	27.5		664	335	247	194
	25	日	27.4		691	362	275	222
	26	月	27.3		719	389	302	249
	27	火	27.2		746	417	329	276
	28	水	27.1		773	444	356	303
	29	木	26.9		800	471	383	330
30	金	26.8		827	497	410	357	
31	土	26.7		853	524	437	384	
9月	1	日	26.6		880	551	463	410
	2	月	26.5		906	577	490	437
	3	火	26.4		933	604	516	463
	4	水	26.3		959	630	542	489
	5	木	26.2		985	656	569	516
	6	金	26.0		1,011	682	595	542
	7	土	25.9		1,037	708	621	568
	8	日	25.8		1,063	734	646	593
	9	月	25.7		1,089	759	672	619
	10	火	25.5		1,114	785	698	645
	11	水	25.4		1,140	810	723	670
	12	木	25.3		1,165	836	748	695
	13	金	25.1		1,190	861	773	720
	14	土	24.9		1,215	886	798	745
	15	日	24.8		1,240	910	823	770
16	月	24.6		1,264	935	848	795	
17	火	24.4		1,289	959	872	819	
18	水	24.2		1,313	984	896	843	
19	木	24.0		1,337	1,008	920	867	
20	金	23.8		1,361	1,031	944	891	
21	土	23.6		1,384	1,055	968	915	
22	日	23.4		1,408	1,078	991	938	
23	月	23.3		1,431	1,102	1,014	961	
24	火	23.1		1,454	1,125	1,037	984	
25	水	22.9		1,477	1,148	1,060	1,007	
26	木	22.7			1,170	1,083	1,030	
27	金	22.6			1,193	1,106	1,053	
28	土	22.4			1,215	1,128	1,075	
29	日	22.2			1,238	1,150	1,097	
30	月	22.1			1,260	1,172	1,119	